

SBIラップ ×  新生銀行

MONTHLY REPORT

2026年3月実績

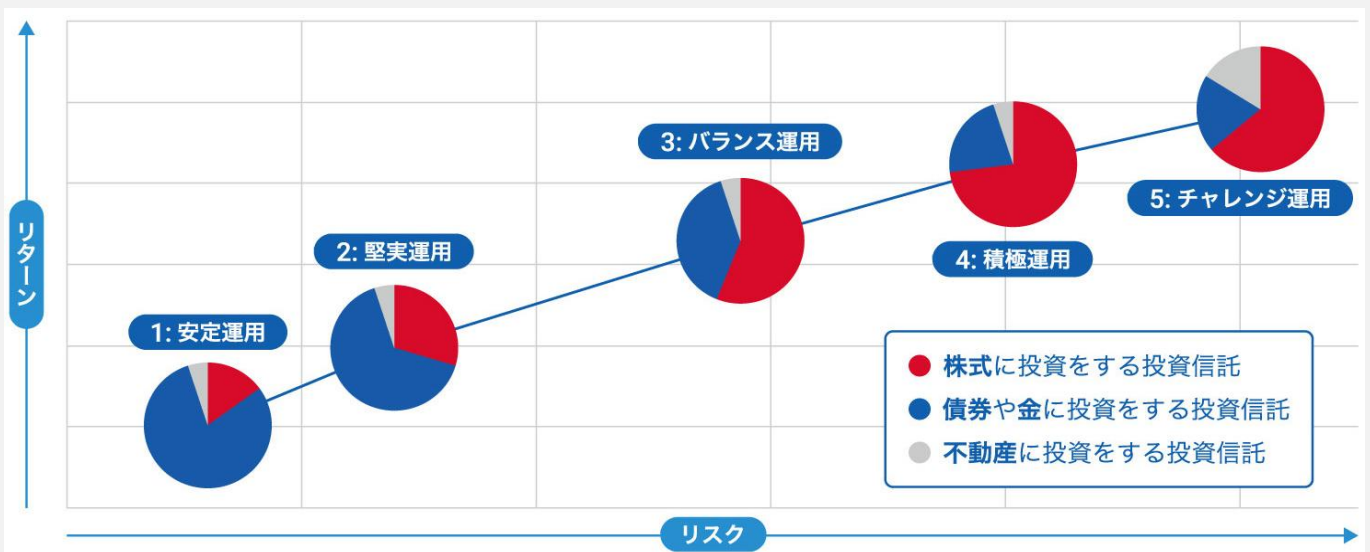
folio

各運用スタイル モデルポートフォリオのパフォーマンス

	各期間のリターン				
	直近1ヵ月	直近3ヵ月	直近6ヵ月	直近1年	運用開始来
	26/2/27~26/3/31	25/12/30~26/3/31	25/9/30~26/3/31	25/3/31~26/3/31	22/10/26~26/3/31
1:安定運用	-2.15%	0.22%	7.43%	14.74%	42.22%
2:堅実運用	-2.97%	-0.42%	6.87%	16.60%	45.44%
3:バランス運用	-4.65%	-1.14%	6.72%	19.85%	55.40%
4:積極運用	-5.96%	-1.67%	6.71%	22.42%	63.49%
5:チャレンジ運用	-6.05%	-1.89%	6.44%	20.85%	64.46%

※1 表中のリターンについては、計算期間開始日から2026年3月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、「SBIラップ×SBI新生銀行」に投資していた場合の運用実績をもとに算出した数値を示しています。なお、運用実績を算出するにあたっては運用手数料年率1.21%（税込）を考慮のうえ、リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しています。算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。表示している割合は年率ではなく、計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

ご参考：各運用スタイル リスク・リターンのイメージ



※円グラフはイメージであり、実際の投資配分とは異なります。
 ※資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

モデルポートフォリオのパフォーマンス

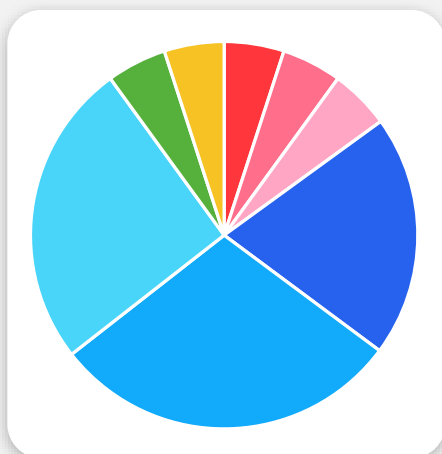


期間	計算期間開始日	1:安定運用
1ヵ月	2026/2/27	-2.15%
3ヵ月	2025/12/30	0.22%
6ヵ月	2025/9/30	7.43%
1年	2025/3/31	14.74%
運用開始来	2022/10/26	42.22%

※1 グラフが示す「SBIラップ×SBI新生銀行」の運用実績について、2022年10月26日（サービスリリースした2022年10月20日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年3月31日まで、「SBIラップ×SBI新生銀行」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年3月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、運用手数料年率1.21%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）-1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している割合は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

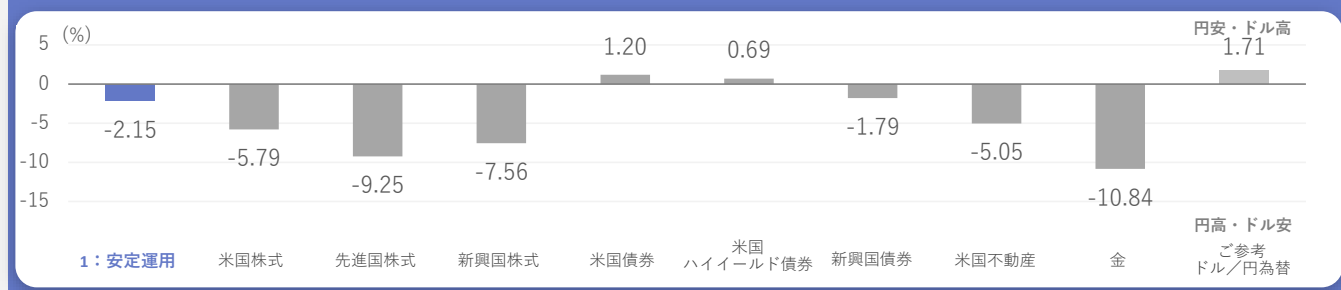
2026/3/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	5.00%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	5.00%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	5.00%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	20.17%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	29.28%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	25.55%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	5.00%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

※3 資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率



※4 騰落率グラフは2026年2月27日の基準価額を基準として、2026年3月31日における各投資対象ファンド及び「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル/円為替は、「（3月31日時点の基準価額または為替レート／2月27日時点の基準価額または為替レート）-1」で計算した値を%で表示しています。「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している割合は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による不透明感や原油価格の高騰が当面続くとの警戒感からテック株を中心に軟調に推移し、為替は、地政学リスクや将来的な景気不安等による“有事のドル買い”の影響で円安・ドル高が進みました。世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まり、「米国債券」と「米国ハイイールド債券」を除くすべての投資対象ファンドが下落しました。結果として、「米国債券」や「米国ハイイールド債券」の保有がプラスに寄与しましたが、「金」や「先進国株式」がマイナスに影響したため、2026年3月の月間のパフォーマンスは -2.15%となりました。

モデルポートフォリオのパフォーマンス

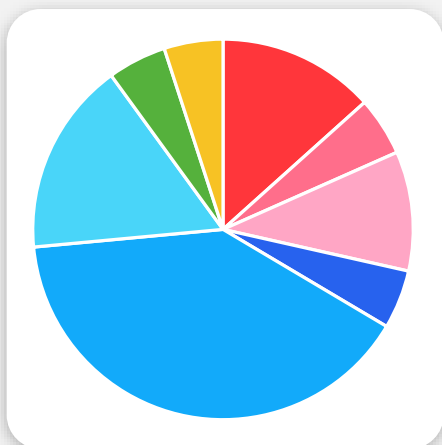


期間	計算期間開始日	2:堅実運用
1ヵ月	2026/2/27	-2.97%
3ヵ月	2025/12/30	-0.42%
6ヵ月	2025/9/30	6.87%
1年	2025/3/31	16.60%
運用開始来	2022/10/26	45.44%

※1 グラフが示す「SBIラップ×SBI新生銀行」の運用実績について、2022年10月26日（サービスリリースした2022年10月20日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年3月31日まで、「SBIラップ×SBI新生銀行」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年3月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、運用手数料年率1.21%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）-1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している割合は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

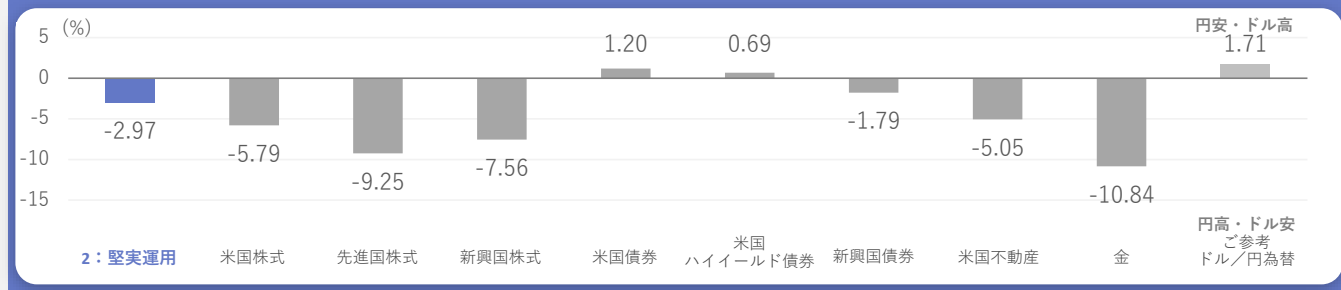
2026/3/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	13.36%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	5.00%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	10.16%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	5.00%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	40.00%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	16.48%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	5.00%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

※3 資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率



※4 騰落率グラフは2026年2月27日の基準価額を基準として、2026年3月31日における各投資対象ファンド及び「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル/円為替は、「（3月31日時点の基準価額または為替レート／2月27日時点の基準価額または為替レート）-1」で計算した値を%で表示しています。「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している割合は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による不透明感や原油価格の高騰が当面続くとの警戒感からテック株を中心に軟調に推移し、為替は、地政学リスクや将来的な景気不安等による“有事のドル買い”の影響で円安・ドル高が進みました。世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まり、「米国債券」と「米国ハイイールド債券」を除くすべての投資対象ファンドが下落しました。結果として、「米国ハイイールド債券」や「米国債券」の保有がプラスに寄与しましたが、「米国株式」や「新興国株式」がマイナスに影響したため、2026年3月の月間のパフォーマンスは -2.97%となりました。

モデルポートフォリオのパフォーマンス



期間	計算期間開始日	3:バランス運用
1ヵ月	2026/2/27	-4.65%
3ヵ月	2025/12/30	-1.14%
6ヵ月	2025/9/30	6.72%
1年	2025/3/31	19.85%
運用開始来	2022/10/26	55.40%

※1 グラフが示す「SBIラップ×SBI新生銀行」の運用実績について、2022年10月26日（サービスリリースした2022年10月20日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年3月31日まで、「SBIラップ×SBI新生銀行」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年3月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、運用手数料年率1.21%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）-1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している割合は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

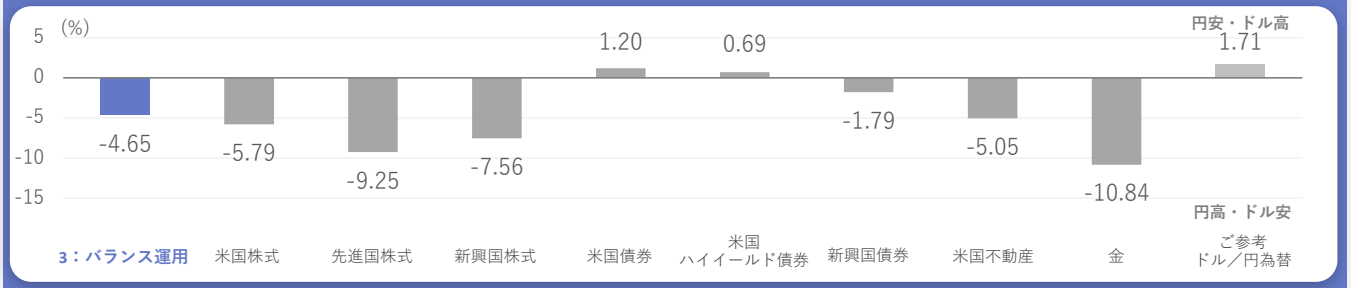
2026/3/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	25.02%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	12.81%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	14.67%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	8.20%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	20.64%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	8.66%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	5.00%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

※3 資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率



※4 騰落率グラフは2026年2月27日の基準価額を基準として、2026年3月31日における各投資対象ファンド及び「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル/円為替は、「（3月31日時点の基準価額または為替レート／2月27日時点の基準価額または為替レート）-1」で計算した値を%で表示しています。「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している割合は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による不透明感や原油価格の高騰が当面続くとの警戒感からテック株を中心に軟調に推移し、為替は、地政学リスクや将来的な景気不安等による”有事のドル買い”の影響で円安・ドル高が進みました。世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まり、「米国債券」と「米国ハイイールド債券」を除くすべての投資対象ファンドが下落しました。

結果として、「米国ハイイールド債券」や「米国債券」の保有がプラスに寄与しましたが、「米国株式」や「先進国株式」がマイナスに影響したため、2026年3月の月間のパフォーマンスは -4.65%となりました。

モデルポートフォリオのパフォーマンス



期間	計算期間開始日	4:積極運用
1ヵ月	2026/2/27	-5.96%
3ヵ月	2025/12/30	-1.67%
6ヵ月	2025/9/30	6.71%
1年	2025/3/31	22.42%
運用開始来	2022/10/26	63.49%

※1 グラフが示す「SBIラップ×SBI新生銀行」の運用実績について、2022年10月26日（サービスリリースした2022年10月20日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年3月31日まで、「SBIラップ×SBI新生銀行」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年3月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、運用手数料年率1.21%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）-1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している割合は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/3/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	33.39%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	19.40%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	17.33%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	9.88%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	5.00%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	5.00%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	5.00%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

※3 資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率



※4 騰落率グラフは2026年2月27日の基準価額を基準として、2026年3月31日における各投資対象ファンド及び「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル/円為替は、「（3月31日時点の基準価額または為替レート／2月27日時点の基準価額または為替レート）-1」で計算した値を%で表示しています。「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している割合は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による不透明感や原油価格の高騰が当面続くとの警戒感からテック株を中心に軟調に推移し、為替は、地政学リスクや将来的な景気不安等による“有事のドル買い”の影響で円安・ドル高が進みました。世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まり、「米国債券」と「米国ハイイールド債券」を除くすべての投資対象ファンドが下落しました。結果として、「米国債券」や「米国ハイイールド債券」の保有がプラスに寄与しましたが、「米国株式」や「先進国株式」がマイナスに影響したため、2026年3月の月間のパフォーマンスは -5.96%となりました。

モデルポートフォリオのパフォーマンス

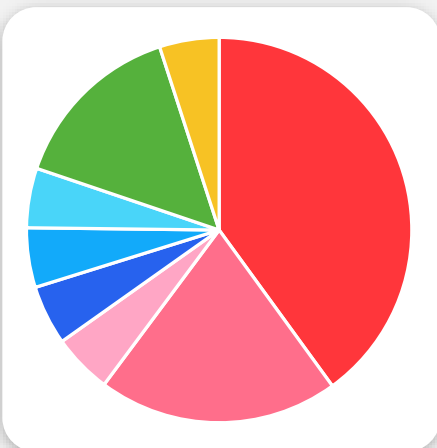


期間	計算期間開始日	5:チャレンジ運用
1ヵ月	2026/2/27	-6.05%
3ヵ月	2025/12/30	-1.89%
6ヵ月	2025/9/30	6.44%
1年	2025/3/31	20.85%
運用開始来	2022/10/26	64.46%

※1 グラフが示す「SBIラップ×SBI新生銀行」の運用実績について、2022年10月26日（サービスリリースした2022年10月20日に申込を行い最遅で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年3月31日まで、「SBIラップ×SBI新生銀行」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金銭に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年3月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、運用手数料年率1.21%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）-1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している割合は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

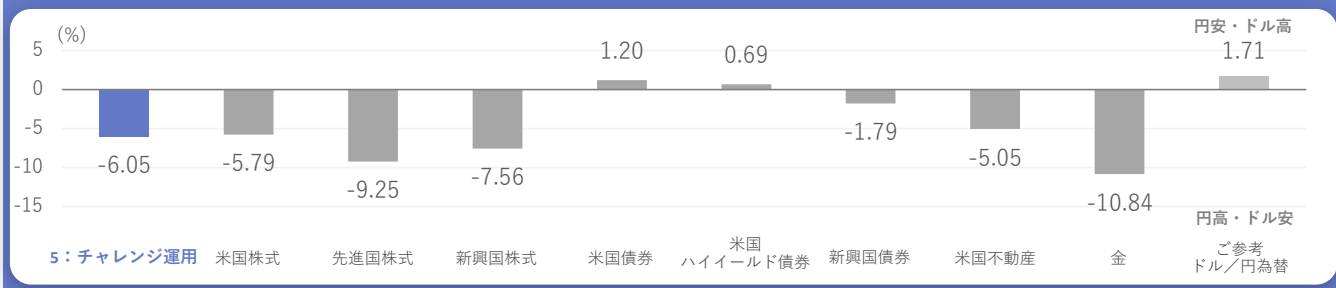
2026/3/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	40.00%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	20.19%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	5.00%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	5.00%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	5.00%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	5.00%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	14.81%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

※3 資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の月間騰落率



※4 騰落率グラフは2026年2月27日の基準価額を基準として、2026年3月31日における各投資対象ファンド及び「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル/円為替は、「（3月31日時点の基準価額または為替レート／2月27日時点の基準価額または為替レート）-1」で計算した値を%で表示しています。「SBIラップ×SBI新生銀行」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している割合は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

株式市場は、中東情勢の緊迫化による不透明感や原油価格の高騰が当面続くとの警戒感からテック株を中心に軟調に推移し、為替は、地政学リスクや将来的な景気不安等による”有事のドル買い”の影響で円安・ドル高が進みました。世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まり、「米国債券」と「米国ハイイールド債券」を除くすべての投資対象ファンドが下落しました。結果として、「米国債券」や「米国ハイイールド債券」の保有がプラスに寄与しましたが、「米国株式」や「先進国株式」がマイナスに影響したため、2026年3月の月間のパフォーマンスは -6.05%となりました。

市場概況

●米国市場概況

(現地通貨ベース)

代表的な指数	26年2月末	26年3月末	前月末比
S&P500	6,878.88	6,528.52	-5.09%

米国市場の代表的な株価指数であるS&P500は、中東情勢の緊張と原油価格の急騰を背景に月間を通して不安定な値動きとなりました。2月末に始まった米国とイスラエルによるイランへの軍事作戦やイランによるホルムズ海峡封鎖に伴う原油価格の上昇に対して、当初は早期収束への期待等もあり市場の反応は限定的でしたが、長期化を警戒する見方が次第に強まり下落幅が拡大しました。原油高を受けてエネルギー関連銘柄が指数を下支えする場面もありましたが、インフレ再燃への懸念や利下げ見通しの後退から、特にテック株を中心に調整が進みました。下旬には停戦期待と失望が交錯し指数は大きく振れ、最終的に前月比-5.09%となりました。

●先進国市場概況（米国を除く）

(現地通貨ベース)

代表的な指数	26年2月末	26年3月末	前月末比
TOPIX	3,938.68	3,497.86	-11.19%
ストックス欧州600指数	633.85	583.14	-8.00%

日本株式市場の指標であるTOPIXは、月初からイラン情勢緊迫化に伴う原油の供給不安などから投資家心理が冷え込み、大きく調整しました。中旬以降、過度な懸念が後退して反発する場面もありましたが、中東情勢に対する不透明感が燻る中、月末にかけて持ち高整理の売りや配当落ちの影響も受けて下落し、最終的に前月比-11.19%となりました。

欧州株式市場の指標であるストックス欧州600指数は、月初からイラン情勢の悪化に伴う原油価格の上昇などが重荷となり下落基調となりました。エネルギーや防衛関連株が相場を下支えする一方、中旬以降は物価上昇とそれに伴う金利上昇への警戒感から一段安となりました。月末には反発の動きも見られましたが、全体としては低調な地合いが続き、最終的に前月比-8.00%となりました。

●新興国市場概況

(現地通貨ベース)

代表的な指数	26年2月末	26年3月末	前月末比
上海総合指数	4,162.88	3,891.86	-6.51%
インドSENSEX	81,287.19	71,947.55	-11.48%

中国株式市場の指標である上海総合指数は、当局による政策期待と中東情勢の緊迫化が交錯する中で、月間を通して不安定な推移となりました。上旬は全人代（全国人民代表大会）で示された景気対策への期待が下支えとなったものの、中旬以降は米中関係の先行き不透明感や原油供給不安、エネルギー高に伴うインフレ懸念等が重荷となり軟調に推移して、最終的に前月比-6.51%となりました。

インド株式市場の指標であるインドSENSEXは、中東情勢の緊迫化を背景に月間を通して下落基調となりました。インドは原油の輸入依存度が高いことから、原油高により物価高と経済停滞への懸念が高まり、特に海外投資家による資金流出が顕著となりました。停戦期待から原油高が一服し反発する場面もありましたが、最終的に前月比-11.48%となりました。

●為替・その他

代表的な通貨・金利	26年2月末	26年3月末	前月末比
ドル/円 為替レート	156.05	158.72	1.71%
米国10年債利回り(%)	3.9375	4.3166	0.3791pt

ドル/円相場は、中東情勢緊迫化を背景に月間を通して「有事のドル買い」が進み、円安・ドル高基調で推移しました。原油高により原油の輸入依存度が高い日本経済に悪影響を及ぼすとの警戒感が強まり、インフレ懸念から米長期金利が上昇したことで、月初から円安・ドル高となりました。停戦期待から一時反転する場面もありましたが、中旬以降も中東情勢の不透明感からドルへの資金流入が続き、最終的に前月比1.71%の円安・ドル高となりました。

米国10年債利回りは、中東情勢の緊迫化による原油供給不安が意識され、エネルギー価格の上昇を通じてインフレ圧力が高まり上昇しました。また、中旬以降に欧米の中央銀行が相次いで利下げに消極的な姿勢を示したこともあり、金利の先高観は根強く、米国10年債利回りは最終的に4.31%台で月末を迎えました。

投資環境に関する過去の事実等の情報提供や、発行時点での投資環境やその見直しに関する当社の見解をご紹介するために株式会社FOLIOが作成した資料です。記載内容は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を示唆又は保証するものではありません。信頼できると考えられる情報を用いて作成しておりますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

各指数等のデータはBloombergが提供する値を用いています。表示されている値（米国10年債利回りを除く）は、小数第3位以下を切り捨てています。

「SBIラップ×SBI新生銀行」に関するご注意事項

- ・ SBI新生銀行が提供するファンドラップ「SBIラップ×SBI新生銀行」は、金融商品仲介口座を通じてお客さまと株式会社FOLIO（以下「FOLIO」といいます）との間で締結する投資一任契約の締結を媒介するもの（以下「本サービス」といいます）であり、資産の運用はFOLIOが行います。また、本サービスの利用に際してお客さまは、株式会社SBI証券（以下「SBI証券」といいます）に金融商品仲介口座を開設いただく必要があり、SBI証券が「SBIラップ×SBI新生銀行」に関する資産の管理を行います。
- ・ FOLIO、SBI証券およびSBI新生銀行は、同じSBIグループに属するグループ会社です。
- ・ 金融商品仲介口座開設の受け付けはSBI証券所定の条件を満たすお客さまに限りです。
- ・ SBI証券に開設されたお客さまご本人名義の証券口座におけるお取り引きにつきましてはSBI証券が定める取引約款等に従うものとし、SBI新生銀行はお取り引きに関しては一切関知いたしません。
- ・ 「SBIラップ×SBI新生銀行」は預金ではなく投資一任契約に基づくサービスのため、預金保険制度の対象ではありません。SBI証券は、お客さまからお預りする資産を、会社固有の資産とは分別して管理します。また、SBI証券は投資者保護基金に加入しており、万が一分別管理に不備があった場合でも、日本投資者保護基金が1,000万円まで補償を行うことになっています。詳細はSBI証券にお問い合わせください。
- ・ SBI証券の法人口座のお客さまは、現在「SBIラップ×SBI新生銀行」をご利用いただけません。
- ・ 「SBIラップ×SBI新生銀行」は、投資一任契約に基づくサービスであるため、お客さまが自ら投資信託の個別の売買注文を行うことはできません。ご契約にあたっては、サービス概要等をよくお読みください。
- ・ SBI証券とのお取り引きに係る手数料・費用、およびご留意点については、下記をご確認ください。なお、お客さまがFOLIOに対して支払った費用の一部をSBI新生銀行およびSBI証券が報酬として受け取ります。
- ・ 「SBIラップ×SBI新生銀行」は、店頭申込限定の商品です。インターネットからお申し込みいただくことはできません。（なお、「SBIラップ」はインターネット申込限定の別商品です。）

「SBIラップ×SBI新生銀行」のリスクと費用について

- ・ 「SBIラップ×SBI新生銀行」は投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）を介して、海外ETFへ投資を行うため、次のような原因で預り資産の時価評価額は大きく変動する可能性があります。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。運用による損益はすべてお客さまに帰属します。
- ・ 投資対象ファンドは、外国金融商品市場に上場している投資信託（ETF）を組み入れることにより運用を行いますので、金利水準、株式相場、不動産相場、商品（コモディティ）相場等の変動による組入る有価証券の値動きおよび為替相場変動等に伴い、投資対象ファンドの基準価額も変動します。これらの要因により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- ・ 投資対象ファンドに実質的に組み込まれた株式や債券等の発行者の倒産や信用状況等の悪化により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- ・ お客さまには運用にかかる費用として、運用資産額（現金部分を除く）に対して1.21%（税込・年率）の「手数料」をご負担いただきます。その他に、投資対象ファンド毎に設定される「信託報酬」および「その他の費用」を間接的にご負担いただきます（信託財産留保額はかかりません）。お客さまにご負担いただく費用は、上記「手数料」と、間接的にご負担いただく「信託報酬」および「その他の費用」を足し合わせたものとなります。
- ・ 「信託報酬」(X)は、すべての投資対象ファンドにおいて一律に、信託財産に対して0.1606%（税込・年率）がかかります。但し、投資対象ファンドを通じて投資するETFの経費率(Y)を足し合わせた“実質的な信託報酬(X+Y)”は、投資対象ファンド毎に異なります。なお、当該ETFの経費率(Y)は、0.03%~0.49%（年率）程度に収まります。また、「SBIラップ×SBI新生銀行」での運用にかかる“実質的な信託報酬”の合計額は、8種類の投資対象ファンドの組入状況によって異なりますが、最新の運用戦略を用いて運用を行った場合、その合計額は0.27%~0.47%（税込・年率）程度に収まります。実質的な信託報酬は目安であり、投資対象とするETFの投資状況等により変動します。
- ・ 「その他の費用」として、信託財産にかかる監査報酬、信託事務の処理に要する諸費用、法定書類（目論見書、運用報告書等）の作成等にかかる費用、組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管に要する費用等があります。「その他の費用」は原則としてお客さまの負担とし、信託財産の中から支払われます。なお、この費用は、運用状況等によって変動するため、事前に具体的な金額や上限額等を示すことはできません。ご負担いただく費用等およびリスク情報につきましては、SBI証券とFOLIOが交付する投資一任契約（SBIラップ×）に係る契約締結前交付書面、投資対象ファンドの交付目論見書等をご確認ください。
- ・ 上記の料率等は2025年12月25日付の目論見書に基づくものであり、将来、変更される可能性があります。

https://www.sbishinseibank.co.jp/retail/swrap/swrap_tempo/



本資料は、投資環境に関する過去の事実等の情報提供や作成時点での見解をご紹介するために、「SBIラップ×SBI新生銀行」の投資運用業務を行う株式会社FOLIOが作成した資料です。記載内容は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を示唆又は保証するものではありません。信頼できると考えられる情報を用いて作成しておりますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

●委託金融商品取引業者

株式会社SBI証券 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 資産運用業協会、
一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会

●投資運用業者

株式会社FOLIO 金融商品取引業者（第一種金融商品取引業、投資助言・代理業、投資運用業） 関東財務局長（金商）第2983号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 資産運用業協会

●登録金融機関

株式会社SBI新生銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会